

和東町第5次総合計画策定に係る
地域概況調査報告書(その1)

令和2年11月

和 東 町

目 次

1 人口	
(1) 総人口	… 2～3
(2) 高齢化	… 4
(3) 少子化	… 4～5
(4) 人口動態（自然動態・社会動態）	… 5～6
(5) 人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）	… 7
2 産業	
(1) 産業別就業者	… 8
(2) 茶業	… 9
(3) 商工業	… 9
(4) 観光	… 10
3 暮らし	
(1) 公共交通	… 11

1 人口

(1) 総人口

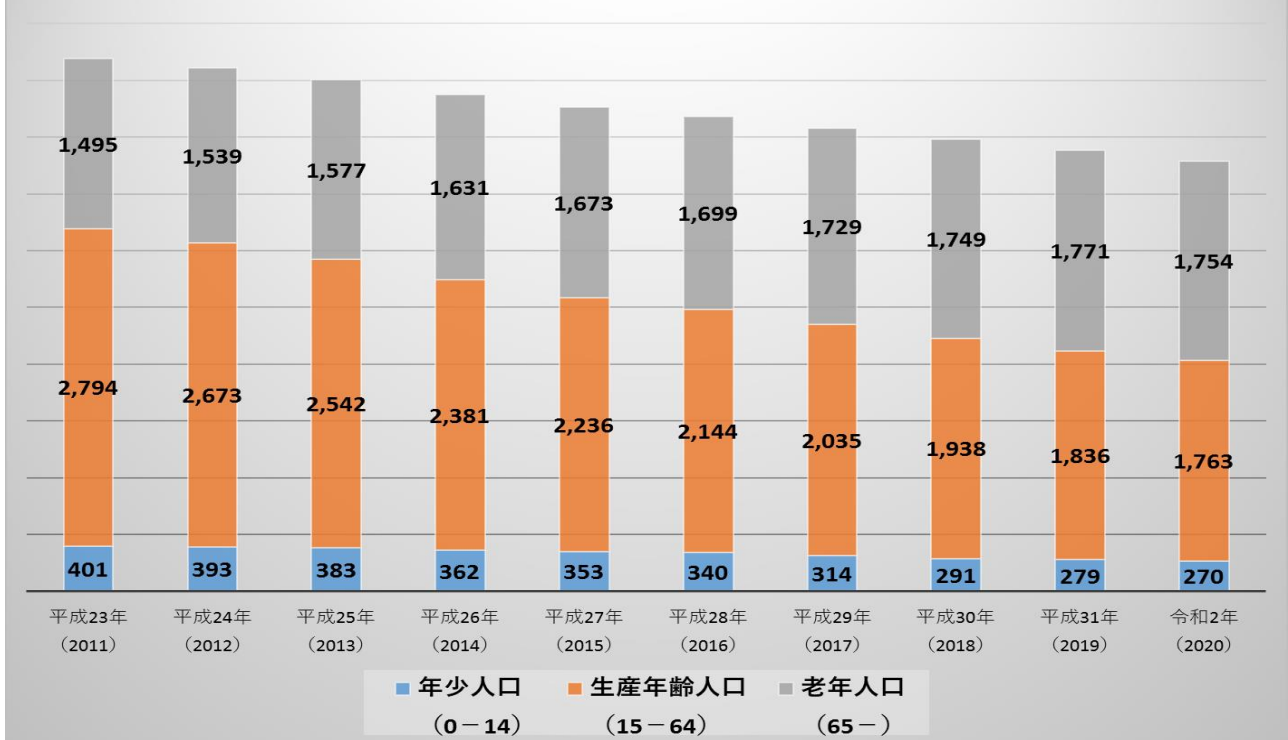
本町の人口は令和2年10月1日現在3,787人（住基人口）で、年々減少しています。また急速な少子高齢化が進んでおり、令和2年10月において総人口に占める年少人口（0～14歳）比率は7.1%、老年人口は46.3%となっています。（出典：住民基本台帳）

総人口と3年齢区分の推移

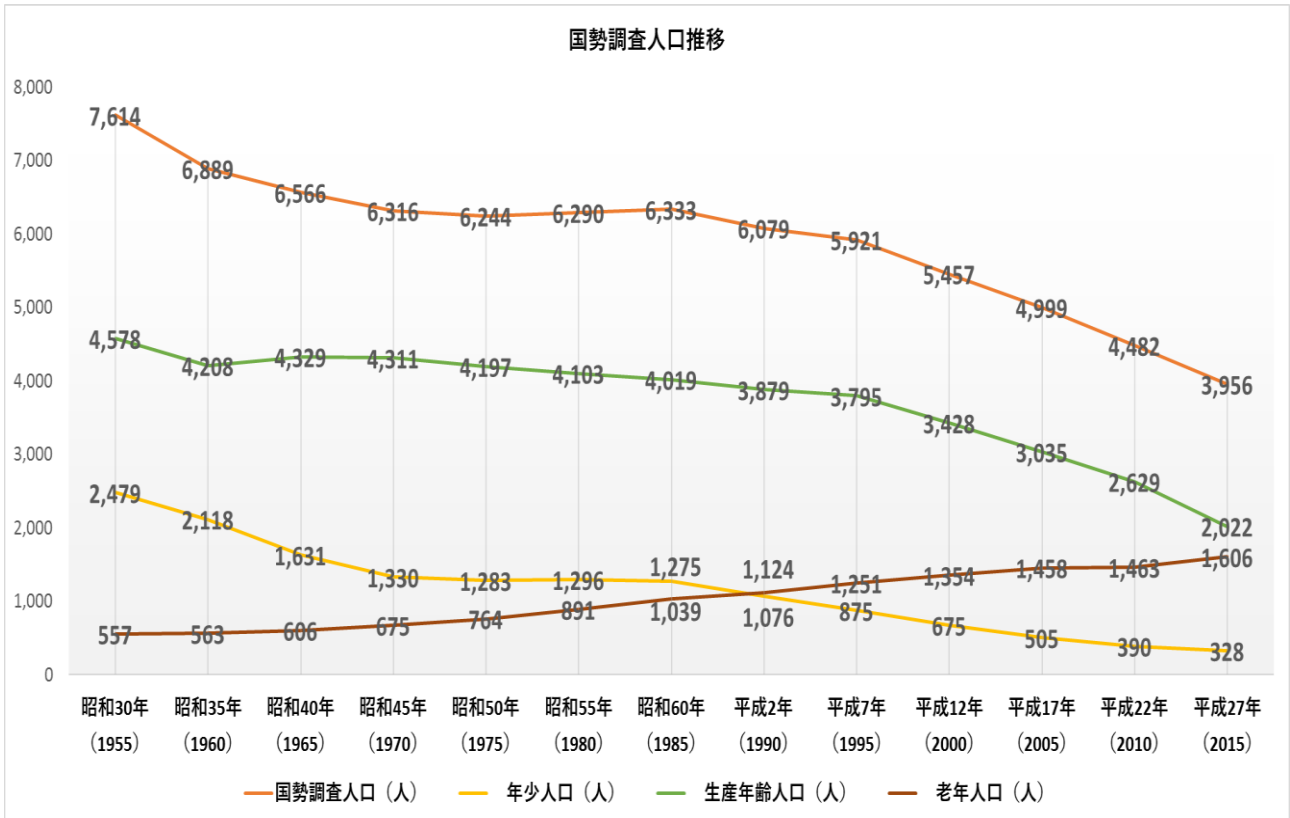
	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	平成31年 (2019)	令和2年 (2020)
総人口	4,690	4,605	4,502	4,374	4,262	4,183	4,078	3,978	3,886	3,787
人口増加率	—	-1.8%	-2.2%	-2.8%	-2.6%	-1.9%	-2.5%	-2.5%	-2.3%	-2.5%
年少人口 (0-14)	401	393	383	362	353	340	314	291	279	270
生産年齢人口 (15-64)	2,794	2,673	2,542	2,381	2,236	2,144	2,035	1,938	1,836	1,763
老年人口 (65-)	1,495	1,539	1,577	1,631	1,673	1,699	1,729	1,749	1,771	1,754
年少人口の割合	8.6%	8.5%	8.5%	8.3%	8.3%	8.1%	7.7%	7.3%	7.2%	7.1%
生産年齢人口の割合	59.6%	58.0%	56.5%	54.4%	52.5%	51.3%	49.9%	48.7%	47.2%	46.6%
老年人口の割合	31.9%	33.4%	35.0%	37.3%	39.3%	40.6%	42.4%	44.0%	45.6%	46.3%

（出典：各年10月1日住民基本台帳）

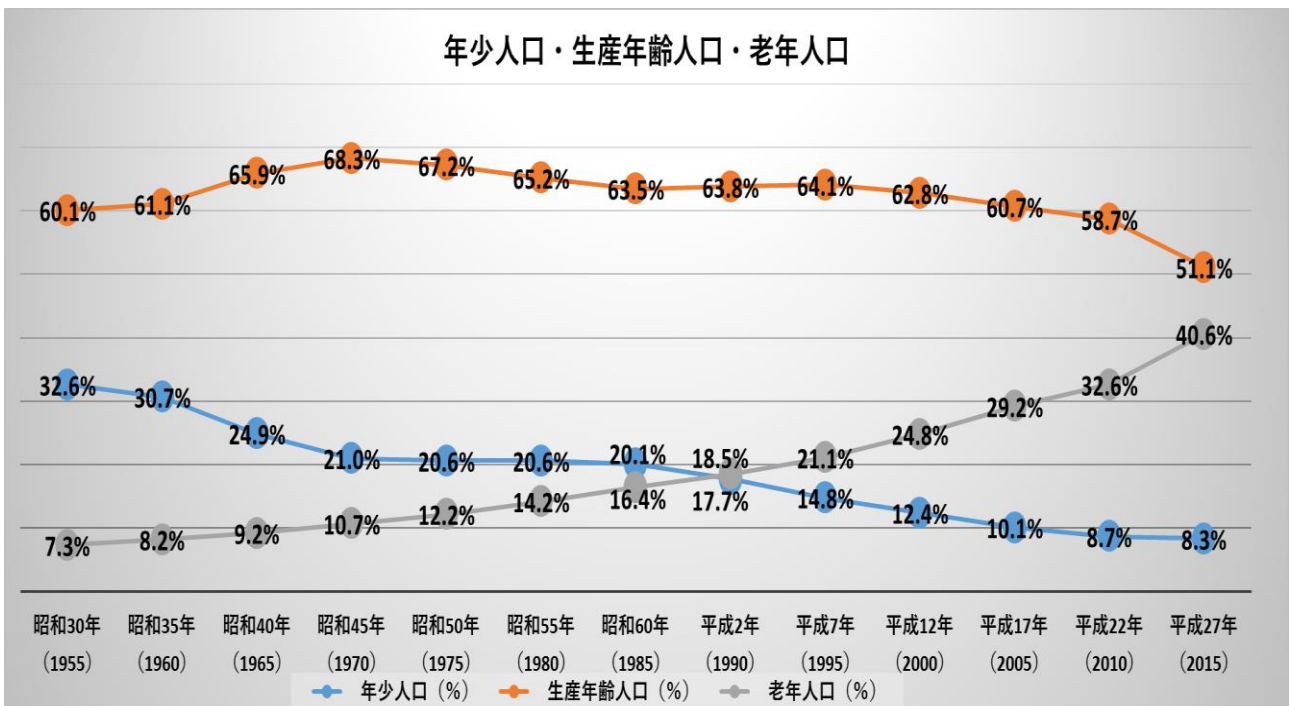
総人口と3年齢区分の推移



国勢調査人口の推移(昭和30年～平成27年)



(出典：国勢調査)

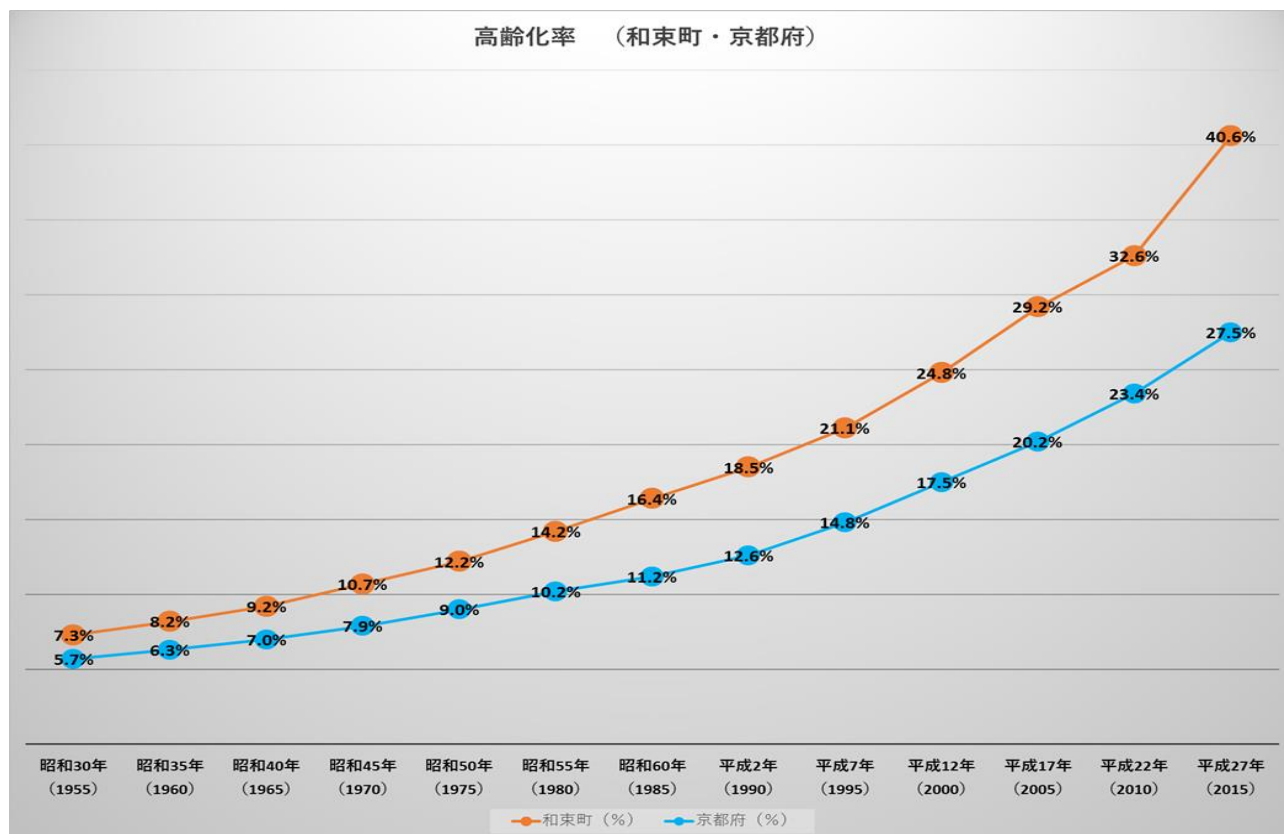


(出典：国勢調査)

(2) 高齢化

高齢化率については、40.6%（平成27年国調）で、京都府平均（27.5%）を大きく上回っています。（出典：国勢調査）

高齢化率（和東町と京都府平均の比較）



（出典：国勢調査）

(3) 少子化

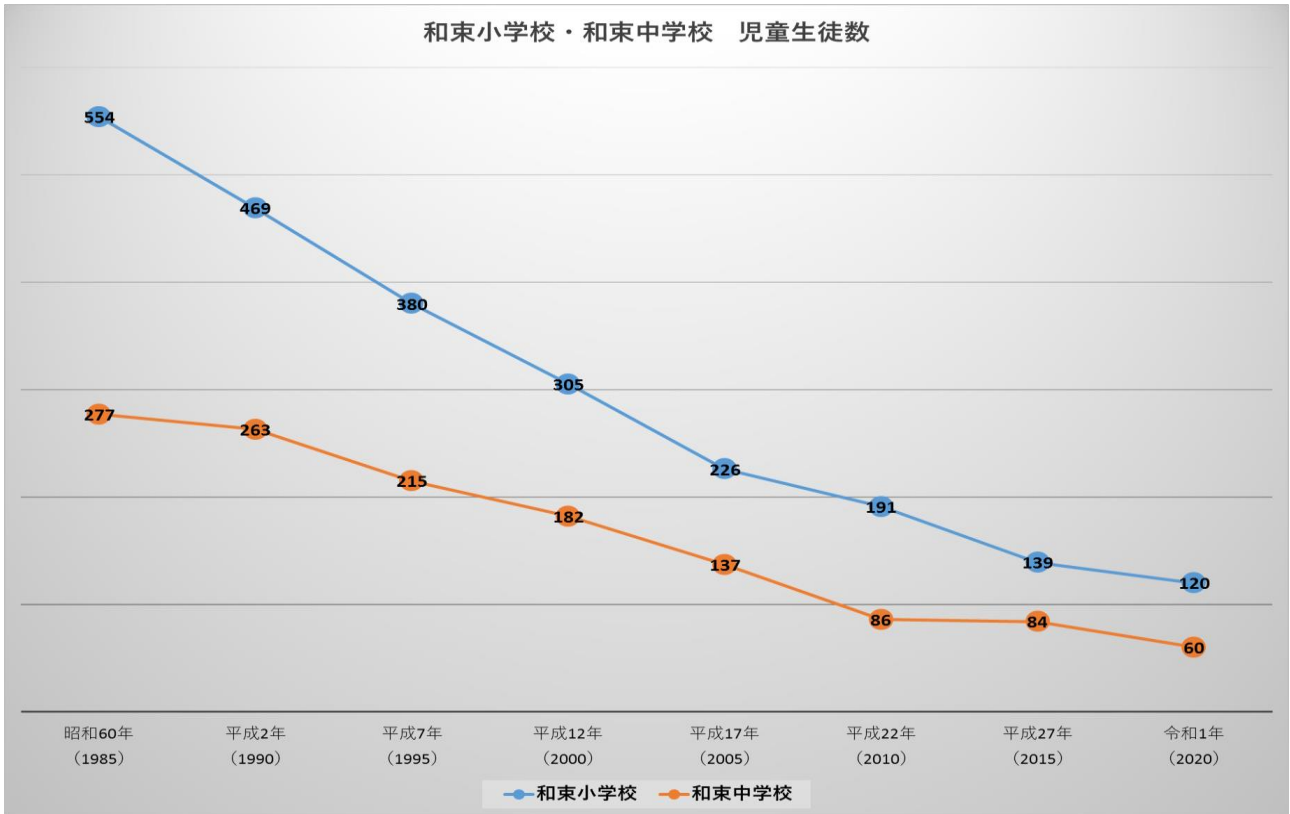
出生数は年々減少しており、最近では年間20人を下回っています。

出生数の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年
出生者数 (人)	22	20	17	21	17	14	16	13	13	15

（出典：住民基本台帳人口移動報告）

和束小学校・和束中学校 児童生徒数の推移



(4) 人口動態 (自然動態・社会動態)

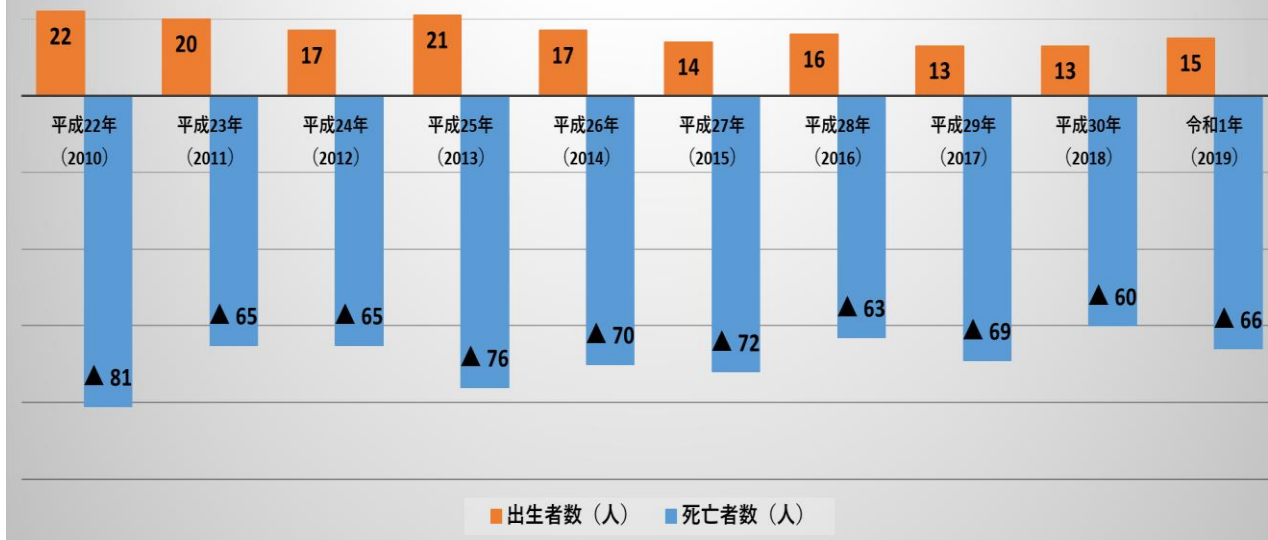
人口動態については、自然動態 (出生・死亡に伴う人口の動き)、社会動態 (転入・転出に伴う人口の動き) とともに減少が続いています。

自然動態・社会動態の推移

	(単位：人)									
	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和1年 (2019)
出生者数 (人)	22	20	17	21	17	14	16	13	13	15
死亡者数 (人)	▲ 81	▲ 65	▲ 65	▲ 76	▲ 70	▲ 72	▲ 63	▲ 69	▲ 60	▲ 66
自然動態 (人)	▲ 59	▲ 45	▲ 48	▲ 55	▲ 53	▲ 58	▲ 47	▲ 56	▲ 47	▲ 51
	(単位：人)									
	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和1年 (2019)
転入 (人)	106	74	74	100	64	72	87	66	54	73
転出 (人)	▲ 126	▲ 113	▲ 118	▲ 148	▲ 138	▲ 121	▲ 117	▲ 118	▲ 111	▲ 109
社会動態 (人)	▲ 20	▲ 39	▲ 44	▲ 48	▲ 74	▲ 49	▲ 30	▲ 52	▲ 57	▲ 36

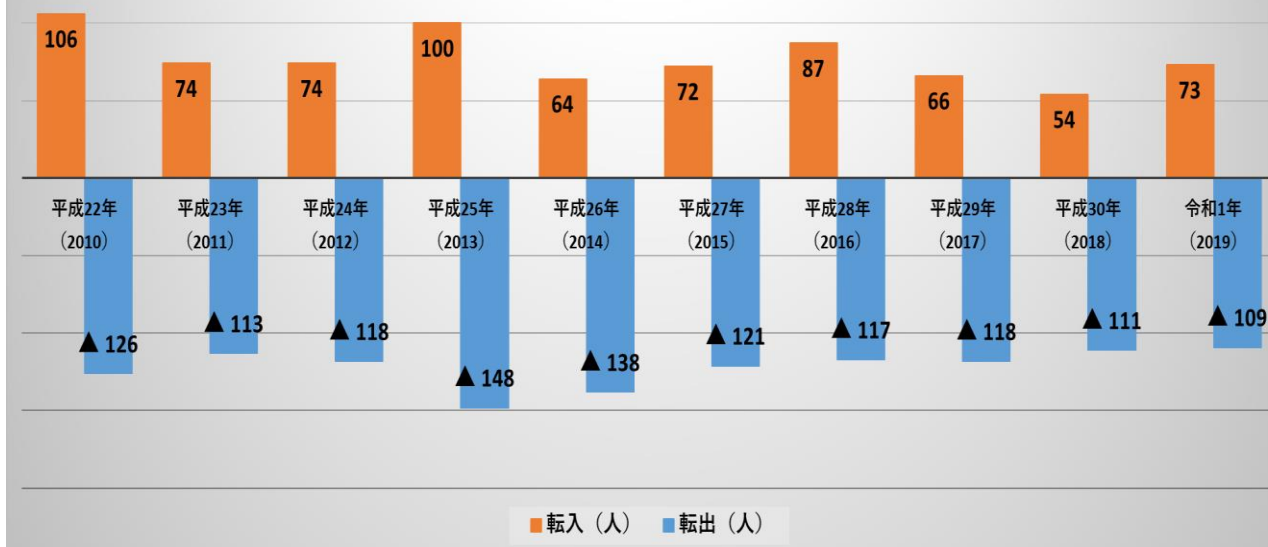
※出典：住民基本台帳人口移動報告

自然動態



(出典：住民基本台帳人口移動報告)

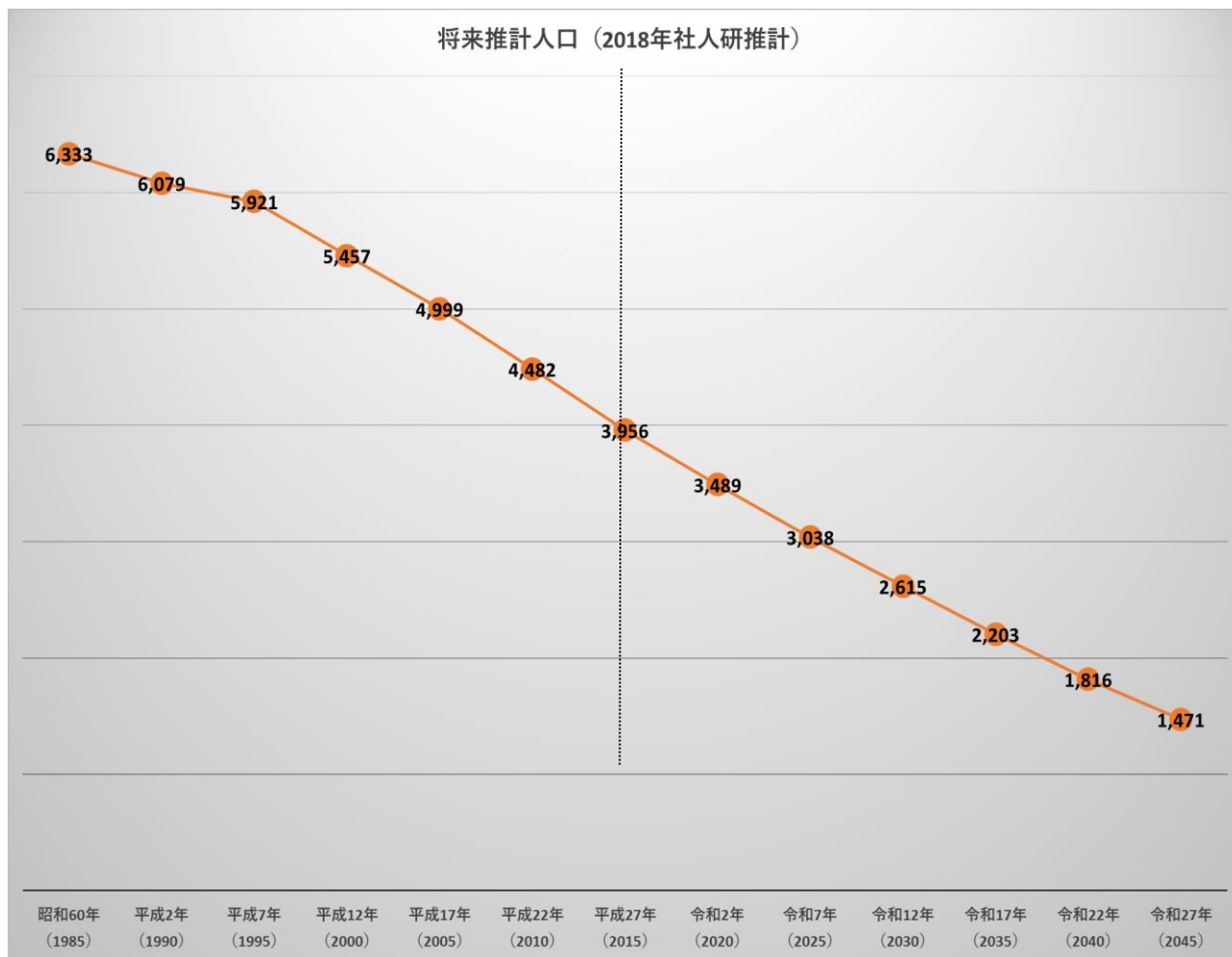
社会動態



(出典：住民基本台帳人口移動報告)

(5) 将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

国立社会保障・人口問題研究所の2018年「日本の地域別将来推計人口」によれば、2015年国勢調査人口3,956人が、20年後（2035年）に2,203人（▲44.3%）、30年後（2045年）には1,471人（▲62.8%）になると推計されています。

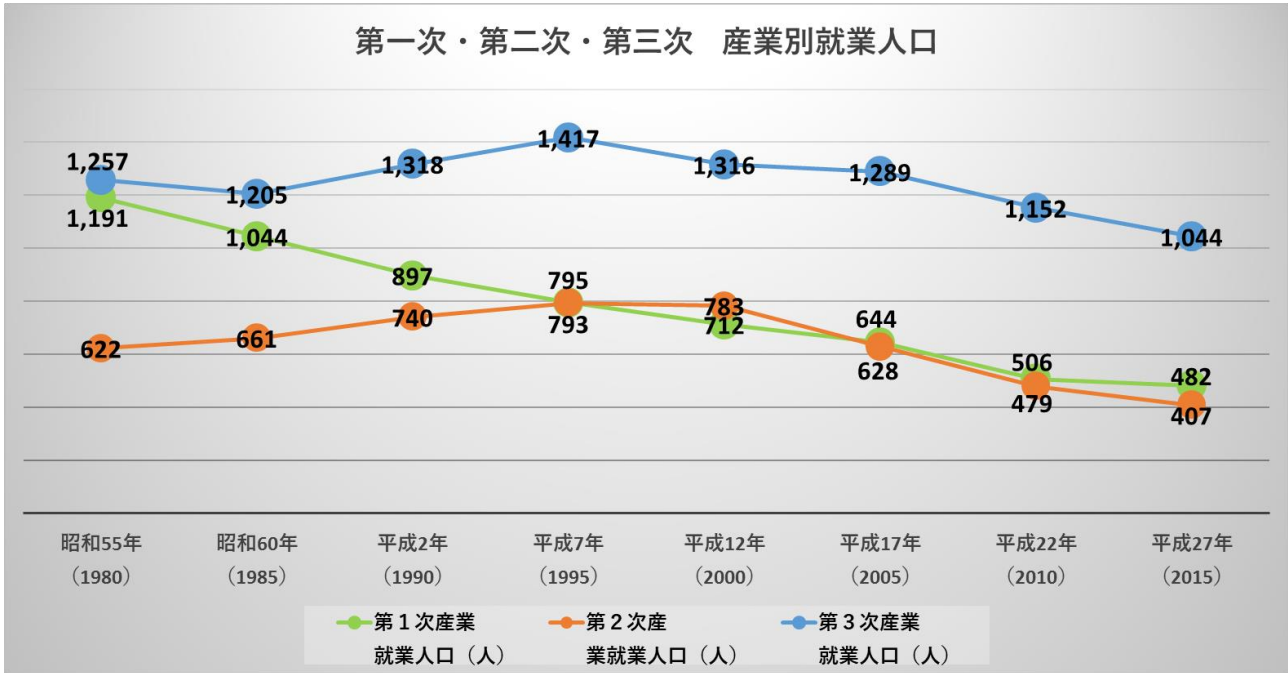


(出典：国立社会保障・人口問題研究所)

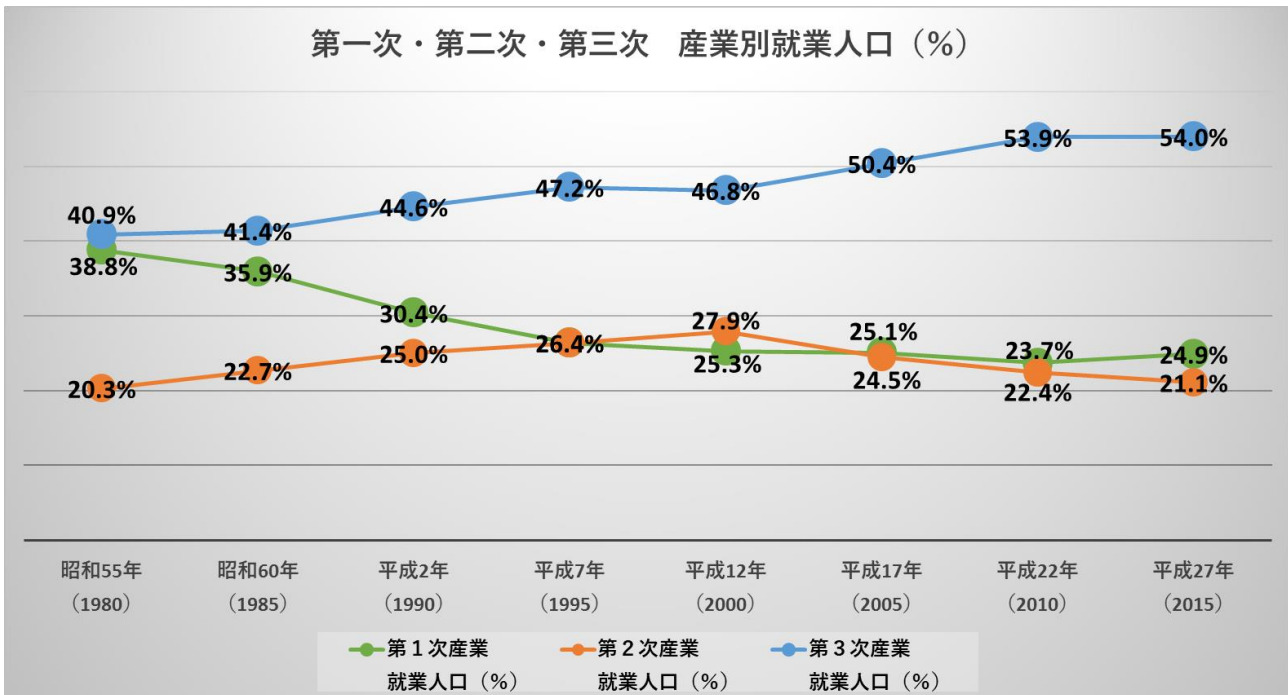
2 産業

(1) 産業別就業者

産業別就業者の推移をみると、いずれの就業者数も減少傾向にあります。特に、茶が主産業である本町においても第一次産業就業者数が減少しています。



(出典：国勢調査)



(出典：国勢調査)

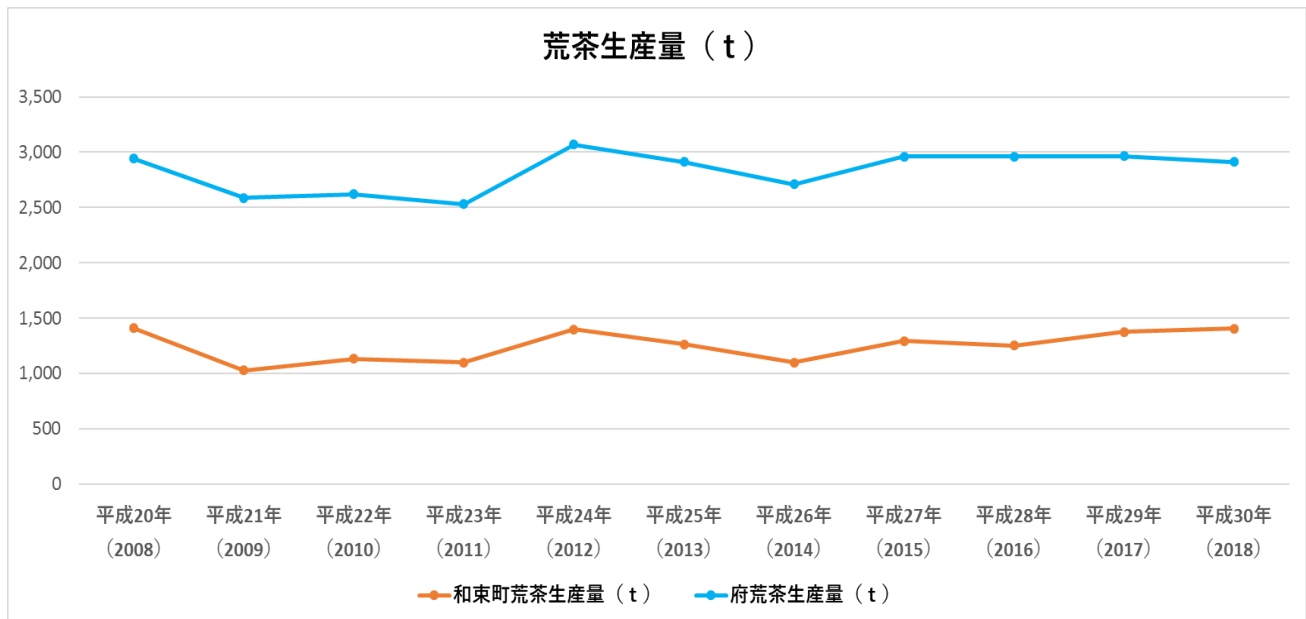
(2) 茶業

和東町の茶産業は活発で、平成30年の茶園面積は570.8ha、荒茶生産量は1,406t、荒茶生産額は30億3,280万円です。茶園面積は府下の37.5%、荒茶生産量は48.3%、荒茶生産額は39.4%で、ともに府下一を誇っています。

府下に占める和東茶の割合

	和東町	京都府	和東茶の割合
茶園面積（成木園のみ）	570.8ha	1,522ha	37.5%
荒茶生産量	1,406.0t	2,912.9t	48.3%
荒茶生産額	30億3,280万円	77億710万円	39.4%

(平成30年京都府茶業統計)



(3) 商工業

卸売業・小売業において、事業所数・従事者数ともに減少傾向にあります。

卸売業・小売業の推移

【卸売業】	平成3年 (1992)	平成6年 (1994)	平成9年 (1997)	平成11年 (1999)	平成14年 (2002)	平成16年 (2004)	平成19年 (2007)	平成24年 (2012)	平成26年 (2014)	平成28年 (2016)
事業所数	12	13	15	11	11	13	13	6	3	2
従事者数	68	73	74	56	66	98	82	29	21	27
【小売業】	平成3年 (1992)	平成6年 (1994)	平成9年 (1997)	平成11年 (1999)	平成14年 (2002)	平成16年 (2004)	平成19年 (2007)	平成24年 (2012)	平成26年 (2014)	平成28年 (2016)
事業所数	86	79	76	65	51	49	45	20	23	22
従事者数	299	273	266	242	209	191	185	97	112	99

※京都府統計書

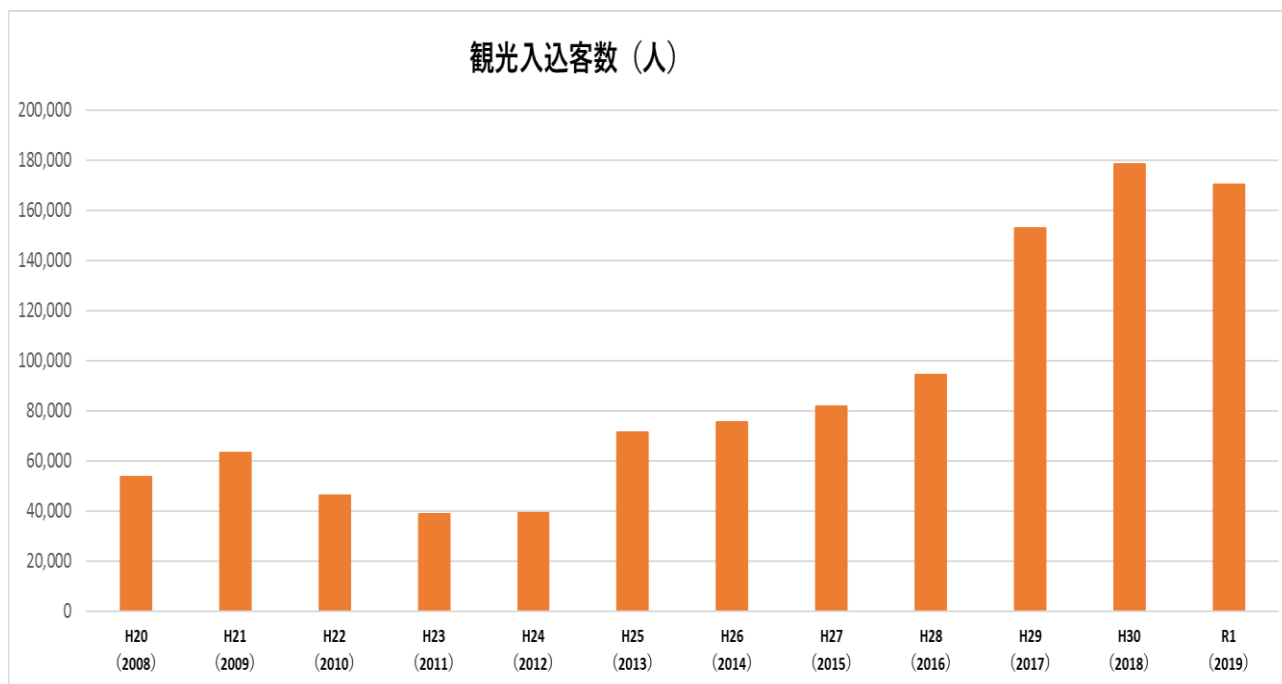
(4) 観光

観光については、茶畑景観を活かした観光振興や、「お茶の京都」「日本文化遺産への認定」などの広域観光の取組により、観光入込客数は着実に増加してきました。

(※令和2年以降については、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大により観光入込客数の動向については注意が必要です。)

	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
観光入込客数 (人)	53,575	63,313	46,455	38,876	39,094	71,315	75,571	81,783	94,463	152,984	178,543	170,429
	(単位：千円)											
観光消費額 (千円)	38,124	44,353	39,755	43,107	41,239	84,047	102,812	111,076	152,238	783,169	650,024	471,629

(出典：観光入込客数及び観光消費額調査結果概要（京都府統計書）)



(出典：観光入込客数及び観光消費額調査結果概要（京都府統計書）)

3 暮らし

(1) 公共交通

本町の公共交通は、JRバスの廃止後、奈良交通バスが木津駅と湯船小杉間を運行していましたが、平成14年度の運行開始以降年々利用状況が大きく変化し、平成22年10月から加茂駅までの運行に再編しました。運賃補助の拡充やダイヤの見直しなども実施していますが、小中高校生の減少など人口減少の影響が大きく、利用者数は年々減少しています。

平成27年7月から町営バス木屋線に代わる公共交通として、木屋区の住民のみなさまがタクシーを利用される際にその料金の一部を助成する事業を開始しました。

また、平成29年10月から京都府、笠置町、和束町及び南山城村の共同により、JR加茂駅～JR月ヶ瀬口駅を結ぶ相楽東部広域バスの運行を行っています。

奈良交通バス（加茂駅～和束小杉） 乗車人数の推移

	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
乗車人数（年間） （人）	139,216	143,238	144,661	147,401	146,364	128,589	115,351	107,687	94,272	87,677	86,778	78,977
乗車人数（1日） （人）	381.4	392.4	396.3	403.8	401.0	352.3	316.0	295.0	258.3	240.2	237.7	216.4

路線バス運行維持補助金の推移

